

第4回 京田辺市産業振興ビジョン推進委員会 議事要点

区分	内容
パブリックコメントの実施結果について	<ul style="list-style-type: none"> ・12月4日から翌1月5日までパブリックコメントを実施した。市内在住者、通勤者、通学者、市内企業関係者の中から6名25件のご意見をいただいた。 ・意見はA～Dの4つに分類した。Aは計画に追加、修正したもの。Bは計画に趣旨を記載済みのもの、Cは計画の実施段階で参考とするもの。Dはその他。A1件、B17件、C1件、D6件に整理した。 ・パブリックコメントの結果については、ホームページで公表する。Dの産業振興ビジョンとは直接関係ないものについても庁内の経営会議に貴重な意見として報告する。
京田辺市産業振興ビジョン（最終案）について	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回の推進委員会でいただいた意見に基づき、大きく2点修正した。 1点目は「交通ネットワークの概況の地図は、名古屋まで範囲を広げた方が良く、道路が三重・名古屋方面に抜けていることが特徴であり、流通の拠点になり得る可能性がある。従って、この強みとなるアクセスの良さをもう少し記載してはどうか」という意見をいただいたので、ビジョン4ページ目に「名古屋方面へのアクセスもさらに向上し」の文言を追加し、地図を名古屋圏まで拡大して掲載した。 2点目はアクションプラン5ページのPDCAサイクル。循環型からスパイラルアップ型に変更した。 その他は前回から大きく変更していない。 ・アクションプランに宿泊施設立地に向けた検討とあるが、ホテルは365日平準的にお客さんが来ないと採算が合わないということで、40万人都市の枚方市ですらハードルが高いと聞いている。平成29年度から年間活動件数は3件とあるが、これはターゲットを決めた戦略的な3件なのか。 →宿泊施設立地については、本年度、京都府の予算でホテルの立地ニーズや稼働状況の調査をしている。来年度以降、誘致活動を実施していこうと考えている。総合建設業者やインフラ企業など、ホテル業者と関わりの強い企業にまずは働きかける。 ・ビジョンの「観光入込客数の推移」に木津川マラソンの記載がない。なぜ掲載されていないのか？全国から5、6千人のランナーが全国から来ている。 →他にもスポーツイベントを含め、集客事業がある。何を入れていくか、今後整理していきたい。
今後の推進委員会スケジュールについて	<ul style="list-style-type: none"> ・アクションプランを内部点検に加え、外部の識者を加えた評価チームに点検していただく。その評価結果を推進委員会にフィードバックさせる。そして市に改善指示をしていただく。それを持って市は事業を推進していく。 ・具体的な活動としては、来年度評価チームを立ち上げて、具体的な評価方法等を検討する。中間進捗評価という形で、平成28年の秋口をめどにテスト評価をする。平成29年の1月か2月にテスト評価結果の報告会を開催させていただく。

	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年度以降は前年度 1 年間の評価をする。平成 28 年度の評価は、次年度の予算に反映させるために、29 年夏ごろをめどに実施する。 ・平成 32 年度に 5 年間の総まとめをする。市民事業者への満足度調査も実施予定。その後、後期の計画を立てていく。 ・評価指標は、活動指標と成果指標の 2 つを設ける予定。まだ出来上がっていないが、評価指標については総合計画の指標と合わせて検討中。 ・一例だが、工業でいうと製造業の従業者数とか製造品出荷額を 5 年間で 10% 増加させたいなど。景気の変動でぐっと落ち込むことはあるが、チャレンジという意味でも設定する。
<p>各委員から推進委員会 全体を通しての意見・ 感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・京田辺に今あるものをどうしていくかということにこだわりすぎたのかなと自分で反省している。 ・ビジョンで方向性を示したことで、観光協会としても事業に取り組みやすくなった。 ・キララ商店街という一等地が放置されている。(多少活性化の兆しはあるが) ・観光でいうとシニアの方で京田辺に詳しい方がいる。まだまだ埋もれているのでそういう方にも活躍いただければと思う。 ・茶の担い手が減ってきている。茶を盛り上げていくには担い手、土台を育ててほしい。今後に繋がるようなビジョンで進んでいけばいいと思う。 ・市場環境は変化していくので、5 年、10 年ではなく、毎年計画を見直していく必要がある。 ・宿泊施設ということでは、過去に京田辺から撤退した宿泊施設の理由を分析することが必要。 ・D-egg の企業が市内に定着しないのは事業をする場所がないからと聞いた。新しい企業が根付くような取り組みが必要。 ・京田辺の素晴らしい農産物について市民の人が知らない。買えるところを知らない。また、農業の後継者が少ない。情報発信が足りていなかったと思う。もっと発信していけば農業を盛り上げていけると思う。 ・運輸交通の視点が抜けていた。交通結節点であり、流通センターなどの集積がありえるので、そういったところの誘致も今後課題になってくるのではないかと思う。 ・京田辺市は交通の便に恵まれている。災害も少ない。日本一恵まれているまち。この産業振興ビジョンを契機に発展すればいいと思う。 ・民間企業というのは利益追求ととらえられがちだが、今回工業部会のディスカッションで、企業間のサポート、結びつきに感銘を受けた。 ・今まで中部圏とは隔たりがあったが、道路でつながり、ビジョンの中にも名古屋が視野に入ってきたのは大きい。 ・市民公募で農業部会に参加させていただいた。父が農業をしていたので知っているつもりはあったが、京田辺の課題を改めて勉強する機会になった。 ・私自身、商工会の青年部に入っているが、人数も少ないということでまだあまり事業活動できていない。京田辺の産業振興、特に商業の課題は商工会青年部に持ち帰って検討したい。

	<ul style="list-style-type: none">・会議に参加し、議論していく中で「農業をやっているだけではだめ」で、いろいろな視野が必要だと思うようになった。・異業種交流は活発にした方がいい。農業者だけではアイデアも限られたものになる。・市内交通の便が悪い。宿泊施設がほしいなどの思いもあるが、シゴトニアや工場見学会など、さまざまな事業を通じて、京田辺市のことを知れば知るほど好きになっている。こうした活動をもっとやっていきたい。・企業がどんどん増えて、駅から企業間でバスを出したり、防災の面でも企業同士が手をつなぎ、市民の皆様に協力できるのではないかと思う。・京田辺に住んで50年だが、資料などを見せてもらおうと、まだまだ知らなかったことがある。市の方には京田辺市を知るイベントをもっとお願いしたい。市民が京田辺市のことを誇りに思えるようになれば盛り上がっていくと思う。・産業祭もあるが、年間を通じて市民と事業者が接触できる形にしていければと思う。
--	--